

読者のお便りから

○大学を卒業してから三十三年経過しております。先の工学部統合募金事業が終了した後、卒業生の一人から見ますと同志社は、大きく変化し

たように思えますが、私の思い過ぎでしょうか。同志社から我々卒業生に盛んにメッセージが届くようになりました。ホームカミング・デー、クリスマスカード、記念卒業式等々。他に我々が図書館へ入るのが自由になったように思えます。同志社が変化した理由は想像できます。私の想像の中で、『同志社時報』の役割に大いに期待しています。

(大阪府 辻 克巳)

○今回、二〇〇三年リユニオンへの初参加、そして、私は、「もつと深く同志社を味わいたい、もつと同志

社の良さを感激するに終わらず、他の人々にも伝えたい、同志社は現代と我が国の混迷を解明する『基準』を敷衍するものを持っている」等、一二八年の歴史の重みの中で発見しました。

そこで、『同志社時報』に出会い、同志社の歴史、人材、これからの展望を全体的に知る事ができることを知りました。又、表紙から内容構成、書のサイズが私の好みとピッタリとあいました。

(兵庫県 杉本 茂)

○過日、群馬県に出張する機会がありました。目的地は一度訪れてみたかった新島襄の故郷安中が近いところでしたので、ぜひともその片鱗にふれたくて何本か早めの電車に乗り、安中を見学してきました。先づは新島襄旧宅。バスを降りてから近づくにつれ、胸の鼓動が高なつてく

るのを感じました。旧宅は、質素で少し荒れていて、何かしら寂しげなものでした。一地方都市がこのように復元管理していることに敬意を表しつつも、同志社におかれては、陳列品や施設の管理や維持について、些かなりとも役割を果たせないものか、と思つた次第です。

(山形県 管 秀男)

※敬称略

同志社時報に関するご意見・ご感想・取り上げてほしいテーマなどをお寄せください。誌面に掲載させていただいた場合は、記念品を差し上げます。